

子どもたちの心に届けたい言葉として、「ありがとう」「ごめんなさい」「だいじょうぶ」があります。「ありがとう」「ごめんなさい」は、自分の気持ちや心を相手に伝える、人と人をつなぐ言葉といえるでしょう。この二つと比べると、もう一つの「だいじょうぶ」は、相手の気持ちや心を考えて発する言葉といえるのではないのでしょうか。思い出してみると、「だいじょうぶ」という言葉は、母に、父に、友だちに、先生にかけてもらった言葉であり、私自身が今も大事にしている言葉です。

言葉は言い方や思いのこめ方で、ずいぶん違う印象を相手に与えます。また、子どもたちの成長とともに、様々な思いが加味されてきます。「だいじょうぶ」という言葉も、子どもたちの心に様々な変化をもたらしていくようになります。

小さい頃からよく耳にしていた「だいじょうぶ」という言葉。走っていて転んだ時や鉄棒の練習で手の皮がむけてしまった時にかけてもらった「だいじょうぶ」は、ただただ、相手を心配する優しさをもった言葉です。子どもたちの心に、安らぎや落ち着きを与える言葉といえるでしょう。それとは違い、何か新しいことに挑戦したい時や自分の進むべき道に悩んでいた時にかけてきた「だいじょうぶ」は、これからの問題に立

ち向かう強さを込めた、相手を信じ、そっと背中を押す言葉です。子どもたちの心に勇気を与え、これらしっかり支えていくメッセージを込めた言葉といえるでしょう。そして、自分自身に自信が持てない時や自分の価値が見いだせない時にかけてきた「だいじょうぶ」は、一緒に悩み苦しむことを相手に伝える言葉です。子どもたちの心に、根気強く見守っていく、決して諦めたりしないこちら側の覚悟を伝える言葉ともいえるでしょう。

子どもたちは、言葉と共に成長をしていきます。だからこそ、私たち大人は、どんなときにどんな言葉かけをするのか考えなければなりません。子どもたちが必要としているときに、必要な言葉を確実に選び、その心に寄り添う言葉を、直接響かせていかなければなりません。その経験を通して、子どもたちは言葉を伝える大切さを学んでいくことでしょう。

悲しいとき、つらい時、苦しい時、いつもそばにあった言葉「だいじょうぶ」。安らぎであったり、ちよつとした覚悟であったり…、相手の心を思う魔法の言葉。
だいじょうぶ、だいじょうぶ。いつでも私たち大人はあなた方を見つめています。



毎月第1日曜日は「家庭の日」
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。
青少年育成都留市市民会議編集委員

連載・青少年健全育成シリーズ 第278回

「だいじょうぶ」

青少年の声かけあいさつ運動の推進
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています
(10,500部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合先：行政管理課 秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,570	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,280	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月
⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。
掲載状況は、下記をご参考としてください。
また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄